

施策評価管理シート

施策体系	政 策	2	美しい自然に包まれ 快適に暮らせるまち	2019(令和元)年6月作成	
	基本施策	3	安全で安心なまちづくり	担当部局(室)名	部局長名
	施 策	3	消防・救急	消防本部	関岡 廣行

1. 計画策定当初(H28)の状況と課題

Plan

- 増加する救急事案に対応するため、救急体制の強化に取り組む必要があります。
- 火災による死者の低減や被害の軽減を図るため、防火・防災意識の高揚を図るとともに、住宅用火災警報器の設置率を向上させる必要があります。
- 消防団員の確保と消防団活動の充実強化を図るため、消防団員の処遇改善等に取り組む必要があります。

2. 施策の基本方針

Plan

- 消防施設等の整備と隊員教育の充実を図り、消防対応力を強化します。
- 高齢化に伴い増加する救急事案に対応するため、救急体制を強化します。
- 地域自主防災組織、民間防火組織及び事業所等と連携しながら、防火・防災意識の高揚を図るとともに、住宅用火災警報器設置の普及啓発活動を強化します。
- 地域防災力の向上を図るため、消防団員の確保と消防団活動の充実強化を進めながら、消防団と自主防災組織との連携強化に取り組みます。
- 周辺市町村等との連携による消防広域応援体制を強化するとともに、平成26年3月に改訂された「三重県消防広域化推進計画」に基づき、引き続き伊賀圏域における消防広域化に取り組みます。

○施策指標(目標)及び達成状況

Plan **D**o

施策指標(目標)の内容(単位)		現状値(H26)	2016(H28)	2017(H29)	2018(H30)	達成率
救急救助体制が充実していると感じる市民の割合(%)	目標	-	-	-	60.3	
	成果	54.3	56.6	50.1	54.3	0.0%
3ヵ年平均出火率(件/万人)	目標	-	-	-	2.46	
	成果	2.54	1.99	1.88	2.40	100.0%
応急手当講習会受講者数(人【延べ数】)	目標	-	-	-	63,000	
	成果	51,661	57,213	60,372	64,111	100.0%

3. 課題解決への取組内容及び成果(平成28年度～30年度)

Plan **D**o

- ・消防、救急、救助体制の充実強化を図るため、緊急防災減災事業債等の有利な起債事業を活用し、次の消防施設等を整備しました。
常備消防…はしご付消防自動車1台、高規格救急自動車2台、指揮広報車1台、査察支援車1台、NBC災害対応資機材一式
非常備消防…小型動力ポンプ6台、軽積載車3台
消防水利…耐震性貯水槽2基
- ・119番の受報から出動までの時間短縮を図るため、統合型位置情報通知システムの導入と地図検索装置の更新整備を行い、導入前に比べ、受報から出動までの時間を平均11秒短縮することができました。
- ・増加する救急需要に対応するため、救急救命士の養成、救急ワークステーションによる救急隊員教育の充実、市立病院をはじめとする医療機関及び三重県ドクターヘリとの連携強化に取り組みました。
- ・応急手当技術の普及を図るため、応急手当講習会の回数を増やすとともに、応急手当普及員の養成に取り組み、3年間で延べ9,686人の方に応急手当講習を受講いただきました。
- ・有事の際に市民等がAEDの設置場所を容易に知りえる環境を整備するため、「AED協力事業所制度」を導入し、公共施設や協力事業所におけるAED設置場所をホームページに掲載しました。
- ・住宅用火災警報器の設置を促進するため、市広報、FMなばりやCATV等での広報を実施するとともに、消防フェスティバル等で民間防火組織と連携し、広報啓発を実施しました。また、設置義務化から10年が経過したため、点検と取り替えについても広報啓発を実施しました。
- ・複雑、多様化する警防・救助事案に対応するため、警防・救助活動に係る教育プログラムを導入し、平成30年度内において、若手職員(消防士長以下)一人あたり平均132時間の警防・救助訓練が行われました。
- ・消防団員の確保を図るため、新活動服への更新や出動手当引上げ等の処遇改善を行うとともに、地域へ協力依頼をするなど募集活動の強化に取り組み、440名(平成28年4月1日時点)から、450名(平成31年4月1日時点)に増員することができました。
- ・大規模災害に備え、地域の防災訓練等を通じ、消防団と自主防災組織との連携強化に取り組みました。また、消防受援体制を確立するため、名張市消防受援計画の改正と受援計画に基づく行動計画の策定を行い、市防災訓練で行動計画の実践と検証を行いました。
- ・伊賀地域での消防広域化に向けた消防の連携・協力として、通信指令業務の共同運用に関する勉強会を開催しましたが、両市の現指令装置の更新時期に隔たりがあることに加え、共同運用に対応するための指令装置の改修も技術的に困難であることが判明したため、引き続き、将来における通信指令業務共同運用等の連携・協力について調査・研究することとなりました。

4. 成果を踏まえた課題や現状



・厳しい財政状況が続く中においても、市民の安全・安心を確保することは自治体の最大の使命であることから、有利な起債事業等を活用しながら、消防車両及び資機材並びに消防水利の整備に取り組む必要があります。

・複雑・多様化する災害に対応するため、指揮活動及び警防・救助活動に係る教育訓練の強化に取り組む必要があります。

・更に増加することが予想される救急需要（平成28年度…3,421件、平成30年度…3,735件）に対応するため、救急救命士の養成、救急ワークステーションによる救急隊員教育の充実、また、市立病院をはじめとする医療機関及びドクターヘリとの連携強化に取り組む必要があります。

・AEDの普及がますます進む中、一般市民を対象とした応急手当講習を更に強化するとともに、引き続き、事業所や学校関係機関と連携し応急手当普及員の養成に取り組む必要があります。

・住宅用火災警報器の更なる設置促進に向けた啓発に加えて、設置義務化から10年が経過したため、点検と取り替えについて重点的に啓発する必要があります。

・消防団員不足が慢性化していることから、消防団員の確保に向けた新たな取組を進める必要があります。また、地域防災の要となる消防団と自主防災組織の更なる連携強化に取り組む必要があります。

・当市の消防力を超える大規模な災害の発生に備え、「名張市消防受援計画」に基づく職員の行動計画の実践訓練と検証を継続して実施するとともに、隣接消防本部等との合同訓練を実施し、相互の協力体制の強化に取り組む必要があります。

・平成31年3月に改定された「三重県消防広域化推進計画及び連携・協力に関する推進計画」に基づき、伊賀地域での消防広域化に向けた、消防の連携・協力について検討を進めるとともに、伊賀市を含む他市との通信指令業務の共同運用についても調査・研究を進める必要があります。

5. 課題解決への取組内容（令和元年度）



・消防、救急、救助体制の充実強化を図るため、有利な起債事業を活用し、次の消防施設等の整備に取り組みます。

常備消防…高規格救急自動車1台
非常備消防…コミュニティ消防センター1棟、小型動力ポンプ2台、軽積載車2台
消防水利…耐震性貯水槽2基

・若手隊員の訓練時間の確保を図り、継続して警防・救助活動に係る教育訓練の充実強化に取り組めます。

・3,700件を超える救急需要に対応するため、救急救命士の養成、救急ワークステーションによる救急隊員教育の充実、市立病院をはじめとする医療機関及びドクターヘリとの連携強化に取り組むとともに、近年、麻しん等の感染が問題となっていることから救急隊員の感染防止対策の強化にも取り組めます。

・一般市民を対象とした応急手当講習の開催数を更に増やすとともに、引き続き、事業所や学校関係機関と連携を図りながら応急手当普及員の養成に取り組めます。また、併せて、AED協力事業所制度を更に広く周知し、有事の際、市民等がAEDの設置場所を容易に知りえる環境の充実に取り組めます。

・あらゆる広報媒体、各種行事・イベント等を活用し、住宅用火災警報器の設置促進と点検、取り替えに係る広報啓発の強化に取り組めます。

・防火対象物、危険物施設に対する立入検査を強化し、令和2年度から導入予定の「消防法令等違反対象物に対する公表制度」の施行に向け、制度の周知と違反事項の是正に取り組めます。

・消防団員の確保を図るため、近畿大学工業高等専門学校と連携協力し、学生の消防団員加入促進に取り組むとともに、学生消防団活動認証制度の導入に取り組めます。

・大規模災害に備え、地域における防災訓練等を通じ、消防団と自主防災組織との連携強化に取り組めます。

・「名張市消防受援計画」に基づく職員の行動計画の充実を図るため、市防災訓練において行動計画の実践訓練と検証を行います。

・令和2年度で整備から10年が経過する通信指令装置の更新について検討を進めると同時に、伊賀市を含む他市との通信指令業務の共同運用について調査・研究を進めます。

6. 行政評価委員会による総合評価



高齢化の進行等により、今後、救急需要の増加が予想されることから、医療機関との連携を強化するとともに、救急隊員の資質の向上に取り組むこと。また、学生の消防団加入を促進するなど、消防団員の確保に取り組むこと。